

一宮町長
馬淵 昌也

昨年の12月議会で、川城議員の給食施設の老朽化対策についてのご質問に対して、教育長が執行部の基本方針を答えられました。詳細は議事録や動画をご覧いただければと存じますが、その件について、わたくしからも少々述べさせていただきます。

給食施設は、町の3つの学校にそれぞれありますが、いずれも老朽化が激しくなっています。特に、本格的な冷房設備もなく、調理員の方々の夏場の暑さ対策が不十分です。町では色々施策を講じて改善を図っていますが、根本的解決になっていません。また、床が旧式の湿式であるほか、現在の要求水準に十分合致していないところも色々あります。

そこで、町では過去数年にわたって、完全に新たな、現在の基準に合う建物を建てる案を軸に改善プランを考えていました。その際、自校給食方式が一番良いのですが、3校の給食施設すべてを新築するには、用地もなく、費用も膨大になるので、親子方式（1校の給食施設で調理し、他の2校に搬送する）や、給食センター方式（センターで調理し、3校に搬送する）などを採用せざるをえないと考えていました。そして、耐震性の問題を抱えた中央公

民館の改築の後に行う考えでした。

ところが、昨今、夏の暑さの激甚化、物価や建設費の暴騰など、新しい状況ができました。激しい暑さは直ちに給食施設への冷房設置を迫るものですし、建設費の高騰は町がこれまで考えていたレベルではない、20〜30億円以上の費用を要求するものです。しかし、こんな巨額な給食施設を速やかに新築することは財政的に不可能です。

そこで、わたくしどもは新しい方針に変更しました。それは、現在の3校の給食施設をそれぞれ大規模改修し、冷房設置のほかできる限り現在の要求水準に近づけてゆくという方針です。これであれば、ひとつの施設に数億円レベルの投資で済むと考えられるうえ、暑さ対策を速やかに進められます。しかも、自校調理方式は維持されます。もちろんこれで施設のすべての要素を基準に合致させるのは難しいかもしれませんが、毎年点検をしながら最大限の努力をし、今後20年間十分使える水準の確保をめざします。

一宮町の給食の評価は高いものがあります。こうした形で今の良好な給食提供を維持しようというのが町の考えです。